

市の現状
<ul style="list-style-type: none"> ・市内の地域間流動では中心部との結びつきが弱い ・路線バス網の中心である南海バスの利用者は減少傾向 ・JR 阪和線、南海本線、南海高野線の乗車人員は横ばいから微増し、平成21年度には再び減少、阪堺線は減少傾向にあったが、平成22年度からは増加傾向 ・都市計画道路の整備水準は、政令指定都市平均を上回る
<p>(環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車保有台数の伸びは大阪府で減少している一方、市では横ばい ・市内の温室効果ガス排出量は、運輸部門から14%で、産業部門の58%に次ぎ高い割合(2008年度データ) ・土地利用では、農地・山林ともに減少傾向であり、特に農地の減少が顕著 ・都市公園の整備水準は、政令指定都市平均を下回る ・下水道人口普及等は、政令指定都市平均を上回る ・住居系用途の占める割合が高いなか、堺区・西区では工業系との用途混在がみられる
<p>(防災・防犯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新耐震設計基準以前の建物が多く存在する ・阪神・淡路大震災や東日本大震災の発生などにより、安心・安全なまちづくりに対する関心が高まっている(社会経済情勢の変化より)

都市づくりの課題

●環境共生に関する課題

- 地球規模で深刻化する環境問題へ対応した低炭素都市づくり
- 持続可能な低炭素都市づくり
- 自然環境や歴史・文化資源等、多様な地域資源の保全と活用
- 産業系土地利用と住居系土地利用の共存

●安全・安心に関する課題

- 市街地や都市施設の耐震化・不燃化の促進
- 浸水・地震・津波など災害に対する市民意識の高まりへの対応
- 犯罪の起こりにくい地域社会の構築

(3) 環境と共生する都市 ～自然と調和し、環境にやさしい低炭素都市づくり～

これまでの急速な都市化の進展により、自然環境の減少や自動車依存型の都市活動による環境負荷の増大など、さまざまな環境問題が生じてきています。

このことから、里地・里山などの残された緑や農地、海・河川・ため池などの水辺空間をはじめ、本市が有する貴重な自然環境や歴史・文化資源の保全・活用を図るとともに、市街地における緑の創出や水辺空間の再生など、次世代へ継承し、自然とふれあい、潤いとやすらぎのある都市づくりを進めます。

また、自動車に過度に依存しない社会へ向け、公共交通を軸とした都市活動への転換を図るとともに、拠点が相互に連携した集約型の都市構造の形成とあわせた再生可能・未利用エネルギーの導入・活用や、資源・エネルギーの消費の抑制やライフスタイルの見直しなどを誘導していくことにより、環境への負荷の少ない低炭素都市づくりを進めます。

【都市づくりの目標】

- ▶自然空間や農地を保全・活用する
- ▶環境への負荷を軽減する

(4) 安全で安心して暮らせる都市

～災害に強く犯罪等が起こりにくい、誰もが安心して暮らせる都市づくり～

本市では、東南海・南海地震や上町断層帯などの活断層による地震が危惧されており、これらの大規模地震が発生すると、建物等の倒壊、火災、津波などの被害が想定されます。また、地震以外にも、集中豪雨発生などの気象現象などにより、土砂災害、浸水等による被害も懸念されます。

また、自然災害だけでなく、市民が安心して生活を営むためには、犯罪や交通事故など、身近に起こりうる危険に対して安全性の高い都市を築くことが重要です。さらには、高齢化が進むなかで、高齢者や障害者をはじめ、誰もが不自由なく日常生活を送ることができるような都市環境を整えることが必要です。

このことから、密集市街地等の既成市街地の改善をはじめ、都市の不燃化など、安全性の高い都市空間の形成を進めていくとともに、「自らの身の安全は自らが守る」、「地区の安全は地区全体で守る」との考えに立った取組みを進め、市民（自助）・地区（共助）・行政（公助）の役割分担と相互の連携により、避難体制の確保や迅速な応急活動など、被害を最小にとどめるため、ハード・ソフト両面から減災の視点にたった都市づくりを進めます。

また、道路や公園などの公共空間における明るさや見通しの確保、ユニバーサルデザインによるまちづくりなど、犯罪や交通事故の発生を抑制するとともに、誰もが安心して暮らすことのできる安全な都市づくりを進めます。

【都市づくりの目標】

- ▶自助・共助・公助で災害に強い都市をつくる
- ▶犯罪や交通事故が起こりにくい、誰もが安心して暮らすことのできる都市をつくる

②魅力と賑わいのある都心に再生する

- ・都心においては、堺東駅周辺地域と堺駅周辺地域を核として、商業・業務機能や行政サービス機能を集積・強化させるとともに、地域の歴史・文化資源を活かした集客・交流機能の向上に加え、堺らしい趣きの感じられる都市景観の形成や住環境の維持・向上を図ることにより、国内外から人が集まり、賑わい、交流できる拠点づくりを進めます。
- ・都心のなかでも堺東駅周辺地域においては、商業・業務機能等の都市機能を集積・強化させるとともに、良好な市街地環境の形成を図ることにより、政令指定都市・堺の玄関口にふさわしい魅力と風格あるまちづくりを進めます。

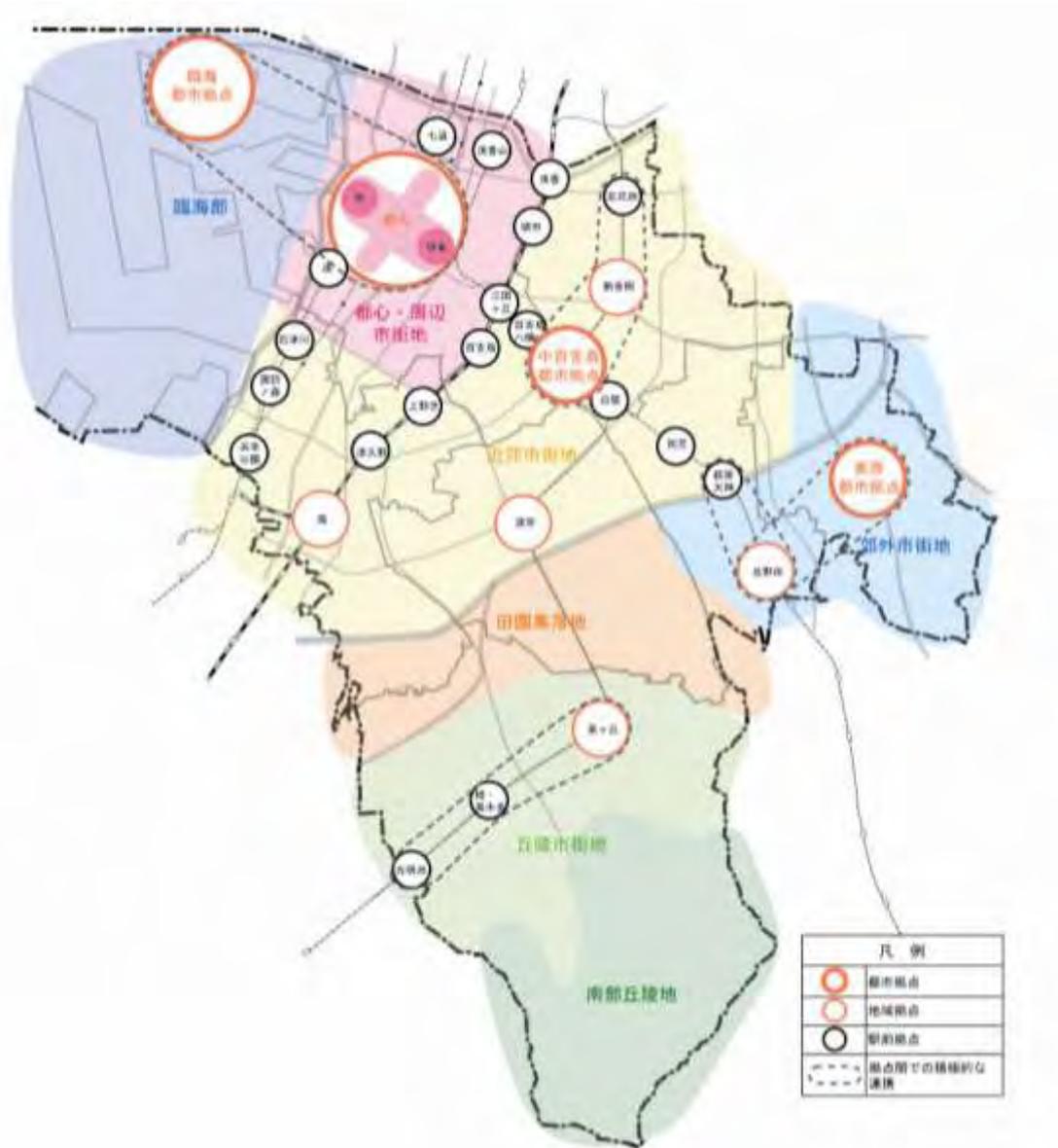
③広域的都市機能の立地を適切に誘導する

- ・市民生活や来訪者のための都市機能の立地を拠点周辺へ誘導するとともに、広域的な集客施設については、公共交通や幹線道路等の既存の都市ストックの状況、周辺の土地利用の状況を勘案し、市街地の拡散につながらないよう、都市基盤が弱い地域への立地を抑制することにより、コンパクトな市街地を形成します。

④堺らしさが感じられる都市空間を創出する

- ・各拠点は本市および各地域の顔となる地区であり、それぞれの特色を活かしたまちなみや都市景観を創出します。特に都心・都市拠点では、魅力ある商業空間に加え、歴史・文化や伝統、産業や学術活動の感じられる都市空間を創出し、観光の振興や交流や賑わいを促進します。

【拠点の配置】



地域構成		主な拠点
臨海部	大阪湾に面し、工業を主体とする産業集積と貴重な海辺空間を有する地域。	臨海都市拠点
都心・周辺市街地	堺駅から堺東駅にかけて商業・業務・文化等の集積した都心を中心として、格子状の街区が形成されている旧市街地とその周辺市街地から構成される地域。	都心
近郊市街地	都心・周辺市街地を囲むかたちで、古くからの良好な住宅地や集落が広がるなか、鉄道、幹線道路を中心として市街地が発展した地域。	中百舌鳥都市拠点 新金岡／鳳／深井
田園集落地	丘陵地の裾野に広がる農地、河川、ため池などの自然と古くからの集落が共存した地域。	
郊外市街地	東部の美原都市拠点や北野田を中心とした市街地と田園地帯が共存する市街地。	美原都市拠点 北野田
丘陵市街地	泉北ニュータウンをはじめとする計画的に整備された市街地と田園地帯が共存する市街地。	泉ヶ丘
南部丘陵地	樹林地、ため池をはじめ豊かな自然環境を持つ丘陵地。市民が自然や農業にふれ、親しめる場。	

◇◇3-2. 民間投資を促進するとともに競争力の高い産業をはぐくむ◇◇◇◇◇

(1) 都市づくりの方針

①産業の立地・集積を促進する

- ・本市最大の産業集積地である臨海部においては、世界をリードする競争力と成長力を持った産業基盤の構築に向け、企業活動の活性化や企業立地の促進を図ります。
- ・環境保全と経済成長が両立した産業構造への転換をめざし、臨海部においては大規模な太陽光発電所（メガソーラー）や環境技術を活かしたプラントなどの集積による低炭素型エネルギー生産拠点の形成を図ります。
- ・臨海都市拠点では、成長産業などへの支援等により、高次の生産機能や物流機能等の集積を促進し、世界をリードする産業拠点の形成を図ります。
- ・美原都市拠点においては、広域交通の要衝としての立地特性を活かした産業の活性化に取り組みます。

②内陸部の工場の操業環境を守り、創造性ある産業活動を育てる

- ・内陸部の産業集積地では、生活環境や周辺の自然や環境との調和を図りながら、良好な操業環境を維持するとともに、市場への近接性や雇用の利便性などの都市部の利点を活かした産業の立地を促進します。
- ・都心北部産業集積地に立地する自転車や刃物などの地場・伝統産業をはじめ、国際競争での勝ち残りをめざして創造性を発揮し、時代とともに変革しようとする企業に対する重点的な支援により、産業活動の活性化を促進します。

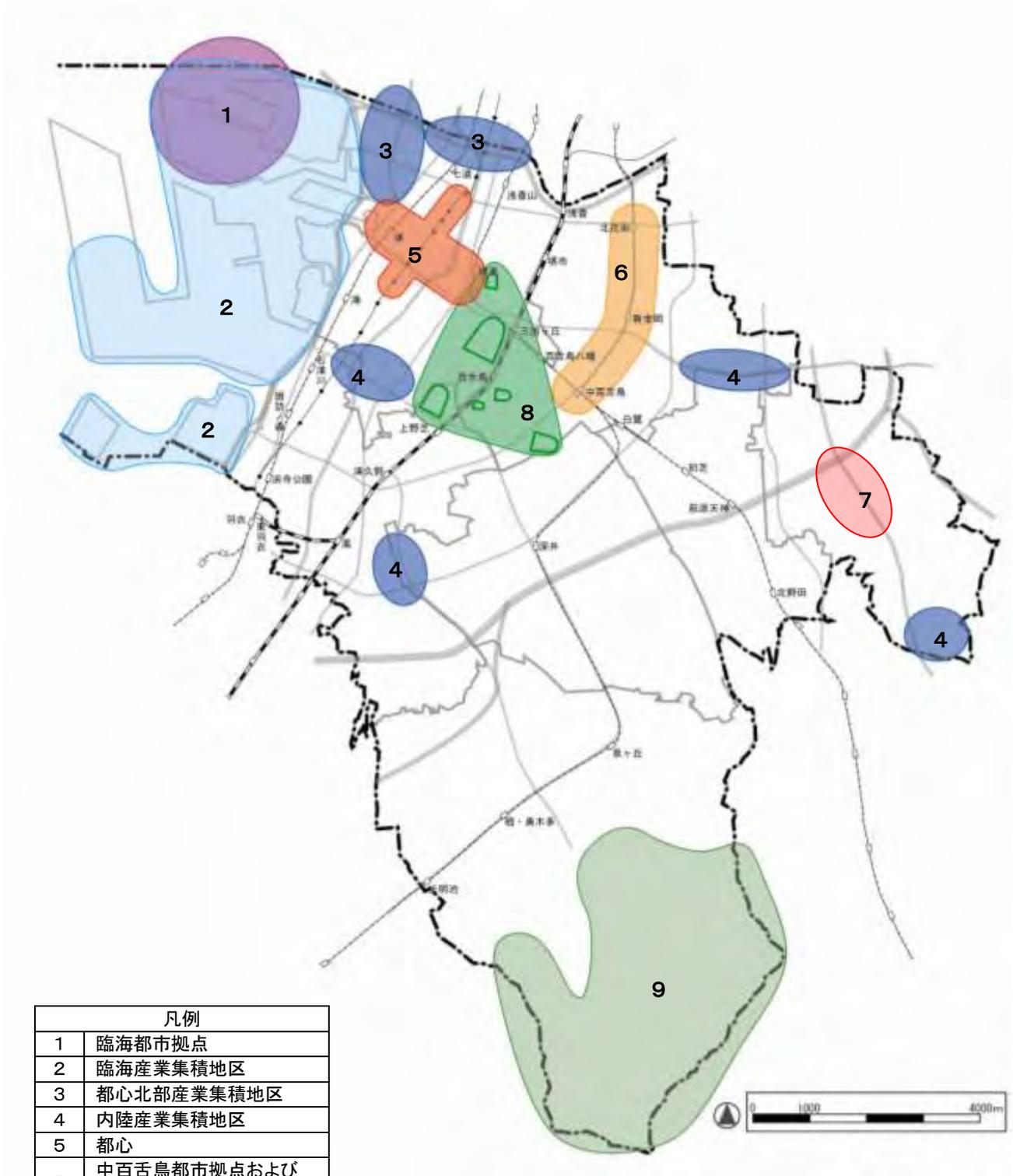
③交流人口の拡大によるビジター産業を育てる

- ・都心の多彩な歴史、産業や文化の蓄積を活かした集客資源の整備、臨海都市拠点では水辺を活かした個性的で新たな集客資源の創出、各地での個性あふれる集客資源の創出などとともに、国内外からのビジターの利便性の向上を図り、集客を促進します。
- ・暫定一覧表への記載が決定し、世界文化遺産登録をめざしている百舌鳥古墳群の保全と大仙公園およびその周辺の整備、文化観光拠点の整備を推進し、来訪魅力を高める環境整備を推進します。
- ・南部丘陵地では、農地の保全と農地を活かした観光資源としての活用に取り組みます。

④市民生活に関連する新しい産業を育てる

- ・成長力に富んだ産業構造の構築のため、環境関連分野、情報通信技術関連分野、さらには、豊かな暮らしを支える医療・福祉等の生活・文化関連分野の産業を育成するとともに、各分野で地域が抱える課題への対策を、市民自身が事業活動として展開していく社会的企業の育成にも取り組みます。
- ・都心や中百舌鳥都市拠点および地下鉄御堂筋線沿線地区を中心に、創造性に富んだ起業家や研究開発型企業の輩出、新たなビジネスモデルの構築をめざし、インキュベーションスペースなどの産業基盤の整備に加え、市内外の企業間・大学などとの交流・連携を促進します。

【重点的な産業立地地区】



凡例	
1	臨海都市拠点
2	臨海産業集積地区
3	都心北部産業集積地区
4	内陸産業集積地区
5	都心
6	中百舌鳥都市拠点および地下鉄御堂筋線沿線地区
7	美原都市拠点
8	百舌鳥古墳群
9	南部丘陵地

◇◇ 3-3. 広域交通アクセス性、市内の移動・周遊性を高める ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

(1) 都市づくりの方針

① 広域的な交通アクセス性を向上する

- ・ 関西国際空港との近接性を活かすとともに、市外からのアクセス所要時間の短縮など、利便性の高い高速道路網や幹線道路網等を形成します。また、市内の体系的な道路整備を推進し、都心、都市拠点等への円滑な交通アクセス性を確保します。

② 公共交通のネットワークを強化する

- ・ 都市間交通は既存の鉄道網を主軸とし、市内交通は既存の発達した鉄軌道網と、路面公共交通を効果的に組みあわせて、拠点間を結ぶ公共交通ネットワークの形成をめざします。
- ・ 各拠点における鉄軌道とバス、さらには自転車との交通結節性を高めるとともに、バスネットワークの充実などにより、各生活圏から駅前拠点、地域拠点、都市拠点、都心への公共交通を軸とする地域バランスのとれたアクセス性の向上と公共交通の利用を促進します。

③ 都市内の移動・周遊ルートを構築する

- ・ 都心・都市拠点および観光拠点等を相互を結ぶ魅力ある周遊ルートとその移動手段(バス、鉄道、自転車など)を確保し、来訪者の市内での周遊性・滞在性を高めます。